



東北大学病院 インフルエンザ対応講習会

平成21年5月1日

「豚インフルエンザの最新情報と 基本的な感染対策について」

東北大学病院インフルエンザ対応ワーキンググループ長

東北大学大学院医学研究科

臨床微生物解析治療学講座 (C-MERMAID) 准教授

東北大学病院検査部 副部長



平潟洋一, MD, FJSIM, Ph.D

大切な事実

豚インフルエンザは過去にも数回ヒトに感染し

流行を起こしており、今回が初めてではない

インタビュー 新型インフルエンザ発生前のプレパンデミックワクチン接種は妥当か

新型インフルエンザ発生前の プレパンデミックワクチン接種は妥当か

1976年の豚型インフルエンザ騒動に学ぶ

西村 秀一氏

国立病院機構仙台医療センター
臨床研究部病因研究室長・ウイルスセンター長

新型インフルエンザ対策の一環として、世界各国でワクチンの開発・準備が進められている。日本においては今年度、医療・検疫関係者 6400 人を対象に、プレパンデミックワクチン (MEMO 欄参照) の有効性・安全性を評価する臨床研究が行われている。さらには、医療従事者や社会機能維持者 1000 万人への事前接種も検討されており、政府は早ければ来年度にも実施したい構えだ。

ところが、プレパンデミックワクチンの事前接種については、専門家の間でも賛否両論あるのが実情だ。事前接種に対して慎重な見方を示す西村秀一氏に話を伺った。

——プレパンデミックワクチンの事前接種に対して、慎重な立場を示されています。

西村 新型インフルエンザ対策において、ワクチンが非常に重要な位置を占

造・備蓄や臨床研究はいいとしても、新型インフルエンザの事前接種には否定的ということですね。何が問題なのでしょうか。

西村 現在検討されているプレパンデ

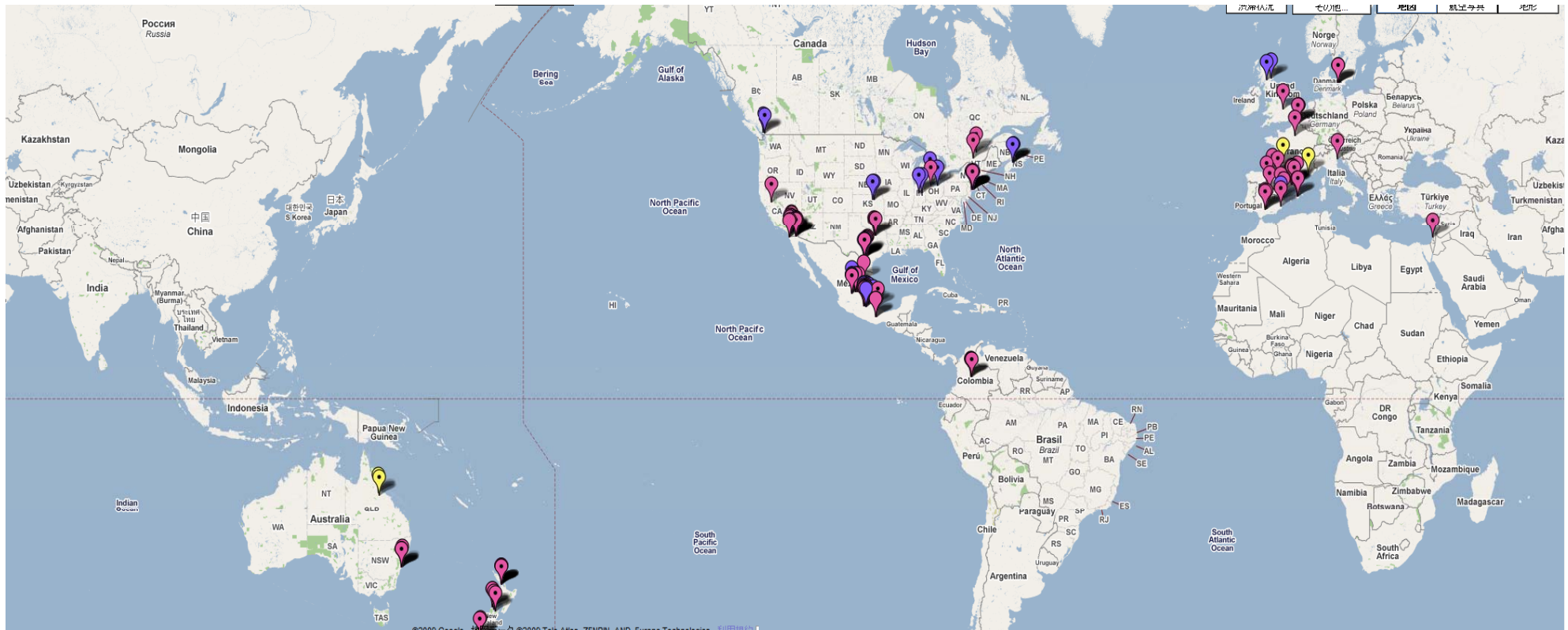
っていますが、上がった人が何%いたという話のみで、それがワクチンの有効性を担保できる程度のものかどうかは十分に検討されていない。欧米のワクチンと比べると、現段階の国産ワクチンの性能は明らかに劣ります。

——ただ一方で、「多少なりとも抗体価が上がるなら、接種して悪いことは何もない」という考え方もできます。現在の治験段階では、大きな副作用も報告されていません。

西村 現在は数千人規模の治験ですが、接種対象者が何千万人ということになると、重大な副作用が出てくる可

豚インフルエンザの発生状況

- 4月25日: **WHO「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」**
- 4月26日: 首相官邸危機管理室にて緊急参集チーム会合 → 内閣総理大臣指示
- 4月27日: 「インフルエンザ対策関係閣僚会議」開催
- 4月28日: **WHO Phase 4 宣言**
「インフルエンザ対策本部」設置 → 第一段階「海外発生期」の措置
- 5月 1日: **WHO Phase 5 宣言**



東北大学病院の動き

2008年 9月 2日 第1回インフルエンザWG

2008年12月24日 第2回インフルエンザWG

2009年3月31日 院内の指針を文部科学省に提出

2009年4月28日 臨時感染対策会議

2009年4月28日 豚インフルエンザを加えた院内の指針を文部科学省に提出

2009年4月28日 海外渡航自粛勧告

2009年4月30日 豚インフルエンザを加えた院内の指針を改定

2009年4月30日 第2回インフルエンザ(拡大)WG

2009年4月30日 ポスター作成



東北大学病院の動き

2008年 9月 2日 第1回インフルエンザWG

2008年12月24日 第2回インフルエンザWG

厚生労働省ガイドライン・行動指針の
改定案、パブリックコメント募集

2009年3月31日 院内の指針を文部科学省に提出

2009年4月28日 WHOが警戒態勢を
フェーズ3から4へ引き上げ、
日本政府に対策本部設置

2009年4月28日 臨時感染対策会議

2009年4月28日 豚インフルエンザを加えた院内の指針を文部科学省に提出

2009年4月28日 海外渡航自粛勧告

2009年4月30日 WHOが警戒態勢を
フェーズ4から5へ引き上げ

2009年4月30日 豚インフルエンザを加えた院内の指針を改定

2009年4月30日 第2回インフルエンザ(拡大)WG

2009年4月30日 ポスター作成



東北大学病院

H5N1 インフルエンザ、豚インフルエンザおよび パンデミックインフルエンザ対策の指針 (2009.4.28 版)

はじめに

現在、近い将来発生すると言われているパンデミックインフルエンザによる危機が叫ばれている。東北大学病院はきたるパンデミックにおいて地域医療ならびに職員の安全管理を担うとともに、地域におけるインフルエンザ以外の様々な重症度の高いまたは特殊な疾患にも対応することが求められている。

従来の様々なパンデミックインフルエンザは人口の約 30%程度が罹患することは共通するものの、死亡率を含めたその重篤性は様々である。

本指針では、散発的に発生している H5N1 インフルエンザ感染症および、現在、最も流行が懸念される豚インフルエンザ、パンデミックインフルエンザの病原性により国内発生時における 3 通りの対応について、東北大学病院において策定することを目的とする。

内 容

国内パンデミック前(フェーズ 3A・3B・4A)への対応

I. H5N1 インフルエンザへの対応	1
II. 豚インフルエンザへの対応	3

国内パンデミック時(フェーズ 4B・5B・6B)への対応

III. 比較的最近のパンデミック(57', 68', 77')と同様の場合への対応	7
IV. スペイン風邪と同様の場合への対応	10
V. H5N1 インフルエンザ感染症がヒトへの伝播性を獲得した場合への対応	12

資料	15
----	----

1. 関連各機関連絡先
2. 用語の解説
3. 個人防護具の使い方
4. 診断及び検体提出の流れ

東北大学、仙台市、宮城県の動き

2009年 4月28日 仙台市第1回メディカル・ネットワーク開催
(仙台市役所)

2009年 4月30日 宮城県保健福祉部
新型インフルエンザへの対応(案)作成

2009年 5月 1日 東北大学新型インフルエンザ危機対策本部
設置および第1回会会議開催



宮城県内の第二種感染症指定医療機関

公立刈田総合病院 感染症病床 4床

仙台市立病院 感染症病床 8床

大崎市民病院 感染症病床 6床

石巻赤十字病院 感染症病床 4床

気仙沼市立病院 感染症病床 4床

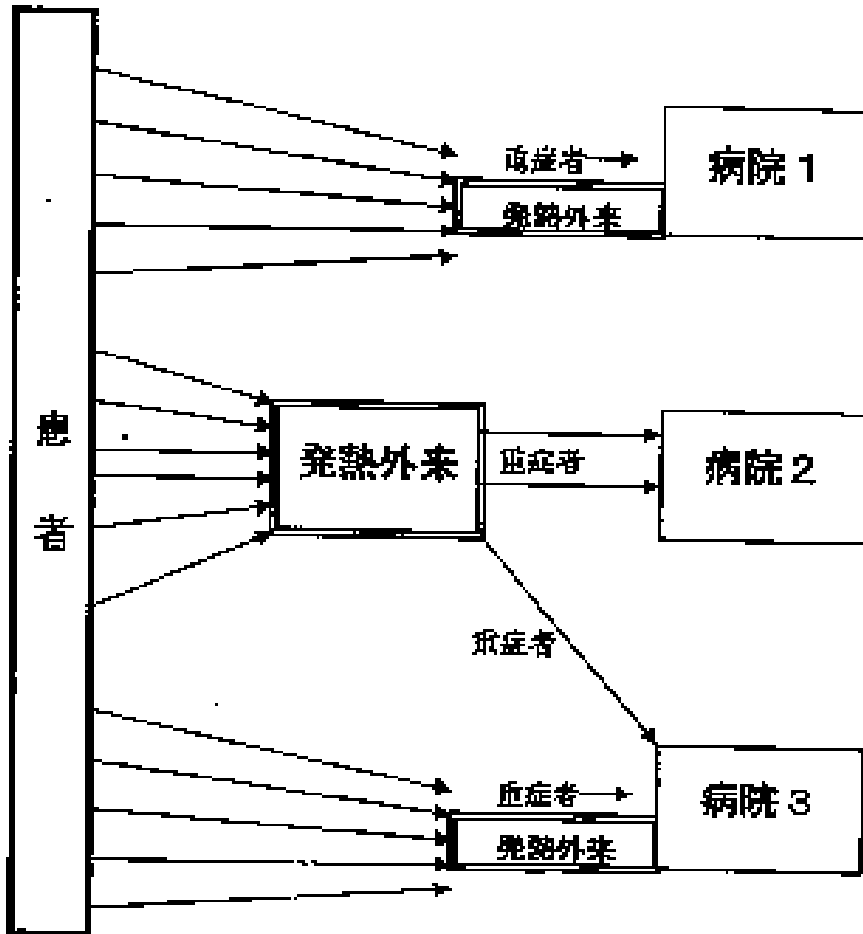
* 県立循環器・呼吸器病センター 結核病床 50床
(感染症対応可能病床 8床) * 発熱外来を予定



新型インフルエンザ対策（医療の提供）

国のイメージ

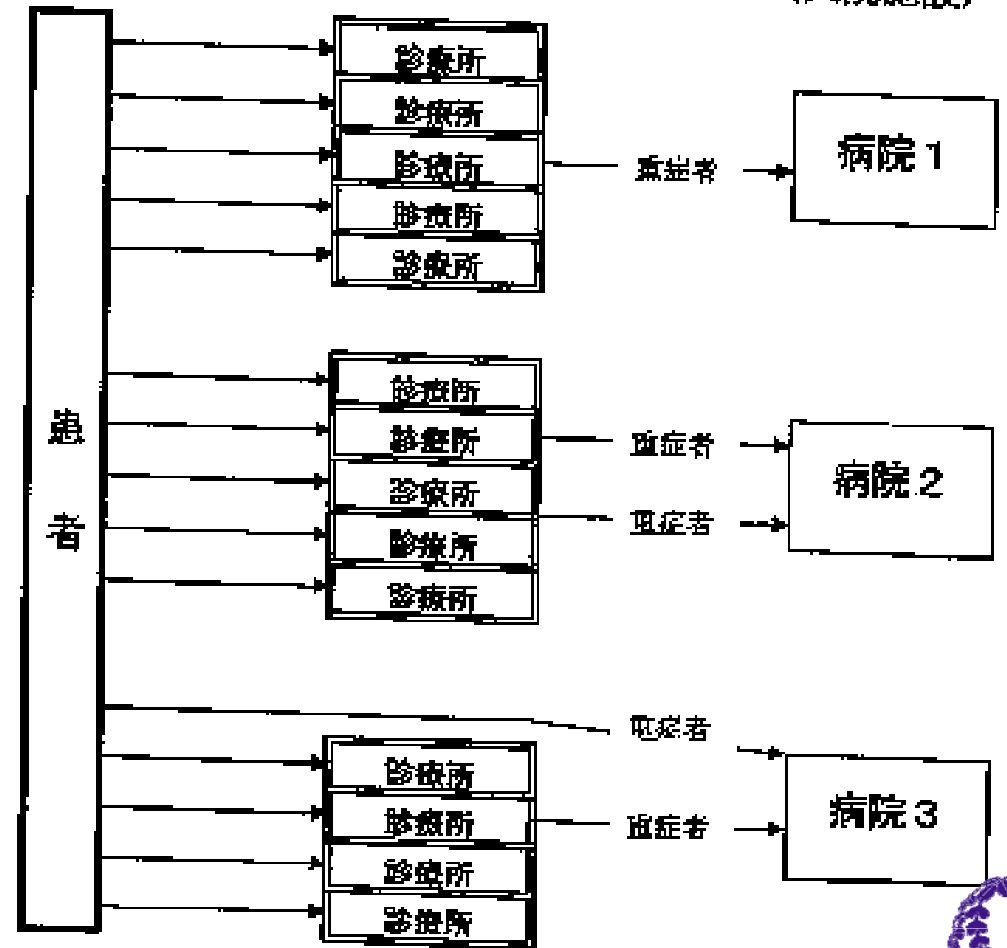
(発熱外来) (入院施設)



仙台市のイメージ

(発熱外来機能)

(入院施設)



全国から注目されているインフルエンザ対策における仙台方式

インフルエンザウイルスの弱点

熱に弱い

酸(胃酸も含め)に弱い

アルコールに弱い

さらに豚インフルエンザでは

現時点でタミフルやリレンザに耐性がない

現時点で重要なこと

通常の診療体制の維持

患者・職員の安全確保

正しい情報の共有 (EASTの活用)

特定の部署・人への負荷を軽減



明らかに間違った先行するイメージ

「インフルエンザ＝タミフル」ではない

ごく限られた場面を除き、サージカルマスクで十分



今後の予定

本日より院内で講習会

(同一内容を3-4回、未受講者にはDVDまたはHP学習を予定)

医学部および東北大学各学部での講義

(5月7日 18時 臨床小講義室

応用医療薬学特論 [MCSコース])

...

...

...

医師会、一般市民への教育のお手伝い



TOHOKU
UNIVERSITY